

# 姓名判断の浸透に関する統計的分析

2002MM031 石島 裕也

指導教員 松田 眞一

## 1 はじめに

現在の日本にはあらゆる占いが存在している。そんな中で、この占いというものがどれだけの人々の間に浸透しているのかということを知りたいと思った。そこで人が誰でも持っている名前を使った占いである姓名判断について調べようと考えた。私の名前は姓名判断を意識して付けられたということを知っていたので、世間一般では姓名判断をどれくらい意識しているのかということを知りたい。統計的に調べ、姓名判断がどれくらい浸透しているかを導こうと思う。

## 2 データについて

聞蔵 [1] と名古屋中南部版の電話帳 [2] と Yahoo スポーツ [3] を使って下記の 6 つのジャンルに分けて、5410 人分のデータを無作為に集めた。(女性は名字が変わっている場合が多いと思われるので、男性のデータだけを集めた。)

- ・電話帳 (1500 人) ・10~20 代 (500 人)
- ・30~40 代 (500 人) ・50 代以上 (500 人)
- ・犯罪者 (1500 人) ・プロの 10~20 代 (910 人)

画数の数え方は「数令姓名学」という流派の数え方を使い、画数に関する善し悪しの判断は「男の子・女の子の名前」[5]「赤ちゃんの名前辞典」[6]「姓名判断」[7] という 3 冊の本をもとにして調べた。

## 3 分析方法

それぞれのジャンルごとに集めた画数を調べ、正規分布に従うかどうかを適合度検定によって調べる。また独立性の検定 ( $\chi^2$  検定) によって 2 つのジャンルをそれぞれ比べ、分布に差があるかどうかを調べる。さらに対数線形モデルを用いて名字と名前や総画数と名前の交互作用を調べる。これらの分析方法を調べるうえで、統計学の web ページ [4] と松田先生の web ページ [8] を参考にした。

## 4 適合度検定による分析結果

### 4.1 総画数の分析

6 つのジャンルに適合度検定を用いて分析した結果、全てのジャンルで画数を意識しているという結果になった。そこで全てのジャンルをまとめた 5410 人分のデータについての分析結果を述べる。まとめたデータをグラフに表すと図 1 のようになる。(色つきのグラフが吉と普通の画数で、白抜きのグラフが凶の画数である。) 実際に適合度検定によって検定していくと P 値は  $3.71 \times 10^{-71}$

0.05 となるので、帰無仮説は棄却され「分布は正規分布

ではない」といえることになる。つまり画数を意識している可能性があるということになる。また総画数の分布の尖度は  $-0.00093$ 、歪度は  $0.43515$  であった。

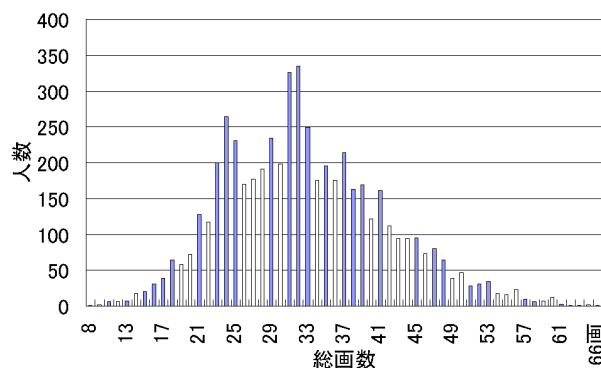


図 1 全体のデータの総画数

ここで個々の画数について分析していくために個々の画数について二項分布の両側の確率を求め、多重性を考慮して 0.001 未満のものを選ぶ。(表 1)

画数	二項分布の確率	期待値	度数	画数の善悪
24 画	0	148.918	264	大吉
32 画	$4.31 \times 10^{-10}$	241.360	335	大吉
23 画	$1.86 \times 10^{-9}$	132.465	200	大吉
31 画	$2.59 \times 10^{-9}$	237.470	326	大吉
25 画	$1.31 \times 10^{-7}$	165.319	231	吉
34 画	$1.01 \times 10^{-5}$	240.079	175	大凶
40 画	$1.24 \times 10^{-5}$	174.600	122	凶
36 画	$2.36 \times 10^{-4}$	227.064	175	凶

(表の上は上側、表の下は下側の二項分布の確率)

表 1 総画数二項分布の確率 0.001 未満

表 1 を見ると、吉の画数である 24、32、23、31、25 画は期待値 < 度数となっており、凶の画数である 34、40、36 画は期待値 > 度数となっている。つまり総画数は凶の画数を避け、吉の画数になるように意識されていると考えることができる。ここで総画数全体を吉と凶に分けて、考えてみる。(表 2)

画数の善悪	項目数	二項分布の確率	期待値	度数
吉	29	0	3002.835	3356
凶	28	0	2394.573	2054

(二項分布の確率はそれぞれ 0.025 以下である)

表 2 総画数の善悪に対する種々の値

表 2 を見てみると、吉の画数が期待値 < 度数となり、凶となるように意識されていることがわかる。また二項分

布の確率はそれぞれ 0.025 以下であるので、この結果の値は多重性を考慮しても意味があると考えられる。これらの結果から総画数は吉になるように意識されていると判断できる。

#### 4.2 名前の画数の分析

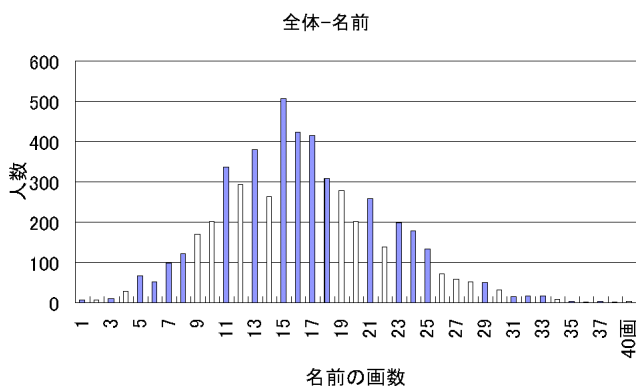


図2 全体のデータの名前の画数

名前の分布の尖度は 0.21504、歪度は 0.38824 であり、P 値は  $8.34 \times 10^{-59}$  であった(図2)。総画数のときと同様に個々の名前の画数について二項分布の両側の確率を求め、多重性を考慮して 0.001 未満の確率のものを選ぶと吉の画数である 11、13、15 画は意識して付けられている、凶の画数である 14、19、20、22 画は避けられているという結果になった。また名前の画数全体を吉と凶に分けた場合にも同様に吉の画数が期待値 < 度数という結果になった。よって名前の画数も姓名判断を用いて吉になるように意識していると判断できる。

### 5 2 検定による分析結果

2 検定を用いた結果「10~20代」と「50代以上」の総画数の分布に差があることがわかり、10~20代のデータは50代以上のデータより吉になる画数が多く、凶になる画数が少ないという結果になった。つまり現代のほうが昔より画数を意識していることになる。

### 6 対数線形モデルによる分析結果

全体の画数をまとめたものから、名字の画数と名前の画数の組み合わせが0人にならない範囲である、名前が7画~24画、名字が6画~27画の範囲の組み合わせにおいて対数線形モデルを用いると名前は大吉の13、15画と吉の17画の数が多いという結果が出た。ここから名前は吉になるように意識されていることがわかる。

また交互作用は名字12画+名前11画(総画数23画)12画+12画(24画)9画+15画(24画)15画+16画(31画)8画+16画(24画)9画+16画(25画)13画+18画(31画)が多く、14画+13画(27画)と7画+13画(20画)と14画+19画(33画)が少ないということが分かる。これをまとめると名字の判断がどんな場合でも、名前と総画数の両方が吉になるように名前を

付けているパターンが多いことがわかる。反対に名前や総画数に凶(大凶)が出てくる組み合わせは少ないことがわかる。つまり名字の画数に関わらず名前の画数は総画数をも意識してつけており、この点から見ても姓名判断を意識していると思われる。

### 7 考察

今回の結果から、全ての分野において画数が意識されていることがわかり、その画数が姓名判断をもとにして付けられていることがわかった。また名字の画数に関わらず名前の画数と総画数を意識していることがわかった。

その他にも10代~20代と50以上の総画数のデータの分布の差から、現代のほうが昔より画数を意識していることがわかった。これは少子化が進み、現代のほうが子供1人にかかる思いが強くなったことを表していると思われる。また姓名判断の概念は昔から存在していたが、50代以上の人の名前は戦前や戦後すぐに付けられた名前が多いので現代より姓名判断への意識が薄かったと考えられる。最後に画数を大吉、吉、普通、凶、大凶の5つにわけた場合の総画数と名前の組み合わせを調べると、総画数より名前の画数の方に良い画数を付けようとしている傾向があることがわかり、さらに総画数や名前は大凶を避ける傾向があった。

これらのことを総合的にまとめると、結果として姓名判断は人々の間に浸透していることを示していることになったと思う。こうした結果になったのは、姓名判断というものが昔から存在し、現在に至るまで廃れていない事を表していると思われる。

### 8 おわりに

分析する前には画数がここまで偏っているとは思っていませんでしたので、画数にばらつきがあることに驚いた。約5000人のデータを集めるのにも苦労したが、さらに人数を増やしたらもっと顕著な結果でたかもしれないので、1万人ぐらいは集めたほうが良かったかもしれない。

### 参考文献

- [1] 朝日新聞：聞蔵 DNA for Libraries, <http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/TOSHOKAN/database/kikuzo-dna/kikuzo-dna.htm>.
- [2] ハローページ名古屋中南部版：NTT 西日本,2005.
- [3] Yahoo!スポーツ,<http://sports.yahoo.co.jp/>.
- [4] 青木繁伸：統計学自習ノート, <http://aoki2.si.gunma-u.ac.jp/lecture/index.html>.
- [5] 高橋秀斎：男の子・女の子の名前, 主婦の友社,1998.
- [6] 田口二州：赤ちゃんの名前辞典, 徳間書店,1993.
- [7] 野末陳平：姓名判断, 光文社,1979.
- [8] 松田真一：データ解析研究 2005 年度, <http://www-p.seto.nanzan-u.ac.jp/~matsu/jugyo/GSdataanalysis/index.html>.